

令和元年10月第4回定例会

一般質問通告書

久喜宮代衛生組合議会

組合に対する質問【令和元年10月9日（水）】

一般質問通告	第1号
質問者	猪股 和雄 議員

【質問事項】

1. し尿処理施設整備基本構想が3月に策定されたが、その後の取り組み経過と今後の整備スケジュールの見通しを明らかにされたい。
 - (1) ケース4（久喜市・宮代町共同処理、八甫処理施設を適正規模に拡大して延命化）が最も効率的かつ効果的な案として示されたが、地域住民への説明と理解を得ることが最優先となる。現在までは、久喜市において策定した「基本構想」であるから、久喜市が事業主体として、地域住民の説明と理解を得る取り組みを（久喜市が）進めていくと理解してよいか。衛生組合の立場と関わり方を説明されたい。
 - (2) 「基本構想について地域住民の皆様方のご理解が得られた後は、組合で長寿命化総合計画策定支援業務委託及び生活環境影響調査の業務委託・・・を行う」というスケジュールが明らかにされている。住民理解が得られた段階で、衛生組合が事業主体となると考えてよいか。
 - (3) 住民理解が得られた段階で、事業主体が移行する際には、衛生組合の「基本構想」として改めて策定することになるのか。どのような行政手続きが必要か、説明されたい。
 - (4) 「組合で長寿命化総合計画策定支援業務委託及び生活環境影響調査の業務委託、業者選定を経て基幹的設備改良工事を行う」、その整備期間は4年程度と想定されているが、初年度はいつ頃と考えているか。
 - (5) 整備完了は、2024年度に供用開始と見込まれているごみ処理施設と同時期と考えているか。それよりも遅れると考えているか。遅れる場合には、衛生組合の解散時期にも影響が出てくるが、どう考えているか。
 - (6) 「基本構想」に関する地域住民への説明と、理解を得る取り組みは、どのように進められているか。見通しと合わせて明らかにされたい。
2. 資源集団回収実証実験の経過と実績、評価を明らかにされたい。
 - (1) 昨年10月から開始された、資源集団回収の実証実験の、昨年第3、4期、2019年度第1、2期の実績を明らかにされたい。9地区、それぞれの地域における住民の参加、地区別、品目ごとの回収実績、報奨金の申請積算と交付

額、登録業者の補助金の申請額と交付額の状況、その合計（市の支出額）を、期ごとに、一覧表で明らかにされたい。

従来の「資源集団回収報償金制度」によった場合の回収団体の報償金、回収業者の収入、その合計（市の支出額）との比較を示されたい。

(2) 約1年間の実績と成果をどのように評価しているか。問題点と課題をどう認識しているか。

3. 災害廃棄物処理の基本的考え方を明らかにされたい。

(1) 久喜市が策定した「災害廃棄物処理計画」によると、災害発生時には、一般廃棄物は衛生組合において処理するが、がれき等の災害廃棄物は衛生組合で処理することは事実上困難（不可能）と理解するしかない。

「計画」では、久喜宮代衛生組合3施設の年間処理能力83,540 tに対して、処理量33,594 tだから、その差の40,016 tを余力として、災害ごみ約10万 tを2年半で処理するとしている。しかし久喜宮代清掃センターだけをとってみても、現在の処理量1万3000 tの3倍近い災害廃棄物を処理するのはどうして不可能であると言わざるを得ないが、見解を問う。

(2) とすると、久喜市のほとんどの災害廃棄物は、市外の広域処理に頼らざるを得ないと考えられるが、衛生組合当局の認識を問う。

(3) 広域処理を進めるとすれば、埼玉県との事前調整、あるいは災害時に設置される「災害廃棄物処理推進協議会」との調整は、どのように進めるのか。主体は久喜市か。

一般質問通告	第2号
質 問 者	渡辺 昌代 議員

【質問事項】

P T Aの除草や垣根の剪定作業をした後のごみ処理について

- (1) 学校のP T Aが行った除草作業や剪定作業の後のごみ処理が大変で困っている。現状はどのようになっているのか伺う。改善点はないか伺う。
- (2) 現在のごみ袋では大変入れずらく困っている。もう少し大きいサイズで丈夫な袋を作ることはできないか伺う。

一般質問通告	第3号
質 問 者	斉藤 広子 議員

【質問事項】

「家庭ごみ・資源物収集カレンダー」を官民協働の広告媒体に変更し財源の縮小を

現在、久喜宮代衛生組合では、複雑なゴミ収集に応じてごみ処理カレンダーを作成しているが、これを官民協働の事業者の広告媒体の事業に変更し財源縮小の取り組みをするべきとおもい何う。

- (1) 現在の発行部数と財源について何う。
- (2) 現在の「家庭ごみ・資源物収集カレンダー」も広告を募集しているが、何社でいくらか。
- (3) 久喜市でも暮らしの便利帳、介護サービス事業者ガイド、子育てガイドブック、保健事業日程表なども官民協働のものに変えてきているが、「家庭ごみ・資源物収集カレンダー」変更についての考えを何う。

一般質問通告	第4号
質 問 者	新井 兼 議員

【質問事項】

1 これからの在宅医療廃棄物の排出量増加への対応について

超高齢化社会を迎え、これからの在宅医療廃棄物の排出量増加への対応に関し、以下の点について伺う。

- (1) 医師・看護師などが患者宅へ出かけて行う往診・訪問診療等での使用、患者や家族が医師の指導管理のもと家庭での使用により生じた医療廃棄物である在宅医療廃棄物の衛生組合管内での収集状況について伺う。
- (2) これまでの家庭ごみから医療用の注射針等の混入が見つかった事案や関係作業員に刺さるなどの事故事案の有無について伺う。
- (3) これまでの注射針等の不法投棄の有無について伺う。
- (4) 在宅医療廃棄物のごみの出し方について、現時点で明確なルールを定め、住民に周知できているのか、衛生組合の見解を伺う。

一般質問通告	第5号
質 問 者	大橋 きよみ 議員

【質問事項】

1. 焼却炉・処理能力の適正について

ごみ問題は生産・消費活動に常につきまとうものである。
そして様々な問題を引き起こす危険性をひそんでいるため、環境問題の中で特に重要だといえる。適正に処理していくことが持続可能な社会につながることでと見え、以下伺う。

(ア) エネルギーロスが減らすには、焼却炉の処理能力が適正であることが大事だと考える。今後、久喜市と宮代町の焼却処理量の推移をどのように考えるのか伺う。

(イ) ゴミの減量が進んでいけば、稼働率の低下に対し何らかの対策をしていく必要が出てくる。考え方を伺う。